

## 予算審査特別委員会総務分科会

- 1 開会日時 令和3年12月9日(木) 午前11時0分
- 2 閉会日時 令和3年12月9日(木) 午前11時42分
- 3 会議場所 議会委員会室
- 4 出席委員  
3番 安藤 利博君      6番 佐藤 武君      9番 保田 守君  
10番 大口 浩志君    14番 松田 勲君    17番 下山 哲司君
- 5 欠席委員  
なし
- 6 説明のために出席した者  
市長 友實 武則君      副市長 前田 正之君  
総合政策部長 山本 幸治君    総務部長 入矢五和夫君  
財務部長 作本 直美君      消防長 井元 官史君  
秘書広報課長 小引 千賀君      政策推進課長 山崎 和枝君  
総務課長 花谷 晋一君      暮らし安全課長 岡本 和典君  
財政課長 和田美紀子君      管財課長 戸川 邦彦君  
税務課長 光田 尚人君      消防総務課長 檜原 秀幸君
- 7 事務局職員出席者  
議会事務局長 元宗 昭二君      主 事 平尾 和也君
- 8 審査又は調査事件について  
1) 議第66号 令和3年度赤磐市一般会計補正予算(第8号)の総務常任委員会所管部分
- 9 議事内容 別紙のとおり

午前11時0分 開会

○分科会委員長（佐藤 武君） それでは、ただいまから予算審査特別委員会総務分科会を開会いたします。

これから分科会の審査に入ります。

当分科会の審査対象は、議第66号令和3年度赤磐市一般会計補正予算（第8号）のうち、総務常任委員会所管部分でございます。

執行部からの補足説明がありましたらお願いします。

補正予算書及び説明資料のページ番号を言うてから行うようにお願いいたします。よろしく  
お願いします。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○分科会委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） 総合政策部の資料を御覧ください。

めくっていただきまして、1ページです。予算書につきましては10ページから11ページ、説明資料につきましては8ページから9ページでございます。

こちらにつきましては歳入でございまして、16款国庫支出金、2項国庫補助金、1目総務費国庫補助金193万7,000円を予定しておりまして、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を増額させていただきます。

補正前につきましては3億930万2,000円、補正後につきましては3億1,123万9,000円でございます。こちらは、各事業についての充当ということでございます。

以上でございます。

○分科会委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

次、お願いします。

○総務課長（花谷晋一君） 委員長。

○分科会委員長（佐藤 武君） 花谷課長。

○総務課長（花谷晋一君） 総務部資料1ページを御覧ください。

総務課の補正予算は2件でございまして、1件は歳出の職員人件費につきまして補正をさせていただきます。予算書は14ページから23ページ、説明資料は10ページから15ページとなります。

教育委員会分を除きまして3,633万5,000円の減額を計上させていただきます。

もう1件につきましては、予算書の同じく14ページから15ページ、説明資料は10ページから11ページとなります。

2款総務費、1項総務管理費、1目一般管理費、13節委託料に例規支援委託料として99万円を計上させていただきます。この例規支援は、国家公務員の定年引上げに伴い、地方公務員の定年も段階的に引き上げられることを踏まえまして、例規整備に向けた本年度の支援業

務の委託を予定しているものでございます。同じく次年度につきましても継続した支援が必要になることから、次年度当初予算にも同じ名称で委託料を計上させていただく予定としておりますので、併せて御説明しておきます。

総務課からの補足説明は以上です。

○分科会委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

岡本課長。

○くらし安全課長（岡本和典君） くらし安全課分についてでございます。総務部資料の1ページの下段を御覧ください。予算書は5ページでございます。

繰越明許費といたしまして、9款消防費、1項消防費、防災マップ作成事業の550万円を翌年度へ繰越しさせていただくものでございます。防災マップ作成業務の委託につきましては、既に契約を締結済みで、作業には取りかかっております。一部地域におきまして、岡山県が土砂災害警戒区域の現地調査等を今年度、今現在調査を行っているところでございまして、その指定が、今の予定で県からお伺いしているのが3月ということでございますので、それからその部分の一部修正を加えましてということになります。冊子にして市民の皆様にお配りすることとしておりますが、その印刷にどうしても1か月から2か月程度要するというので、3月末までの納品が少し難しい状況となっておりますので、予算について繰越しをさせていただくこととしております。

なお、配布につきましては、令和4年度の出水期までには市民の皆様にお届けできるように精いっぱい頑張って、早めの作業ということでさせていただきますので、よろしく願いいたします。

総務部からは以上です。

○分科会委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

次、お願いします。

○財務部長（作本直美君） 委員長。

○分科会委員長（佐藤 武君） 作本部長。

○財務部長（作本直美君） 財務部につきましては、本会議場で御説明させていただいたとおりでございます。特に補足説明はございませんので、よろしく願いいたします。

1ページ目に基金のことを書かせていただいております。

以上でございます。

○分科会委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

○消防総務課長（檜原秀幸君） 委員長。

○分科会委員長（佐藤 武君） 檜原課長。

○消防総務課長（檜原秀幸君） 消防本部資料を御覧ください。

議第66号令和3年度赤磐市一般会計補正予算（第8号）について補足説明をさせていただき

ます。

予算書は22ページから23ページ、予算説明資料は14ページから15ページをお願いします。

人事異動等により職員人件費を減額するものでございます。年度途中の職員の退職と休職者による減額でございます。

簡単ですが、以上で説明を終わらせていただきます。

○分科会委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

以上で所管部分の予算説明いただきました。

これから質疑を受けたいと思います。

質疑をお願いします。

○委員（大口浩志君） はい。

○分科会委員長（佐藤 武君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） もし、この場にそぐわない質問だったらごめんなさい。

くらし安全課の、よく何回も説明いただいております防災マップの件ですけど、防災マップをいづれ時期は別にして市民の手元に配られる。それを作って、配って終わったらもったいないと思うので、何回も市民が手に取っていただけるような仕掛けは何か、赤磐市の場合は考えておられるのでしょうか。

○分科会委員長（佐藤 武君） 岡本課長。

○くらし安全課長（岡本和典君） やはり、くらし安全課としましては、従来からやっておりますが、地域に出向いての防災講座、それからこれは各区、町内会の会長さんに重ねてお願いをさせていただきますが、自主防災組織の設置といたしますか、補助金を使う意味での自主防災組織でございますが、その設置届けが出されていない地区がまだございますので、ぜひその設置をしていただきまして、地区内での訓練あるいはそういった講座等について積極的に活動をしていただく。その中で、防災マップを特に今回改正ということになっておりますし、想定最大規模の浸水想定ということも新たな事象として出てきております。それから、地震等につきましても、直近でも赤磐市の震度3というような地震もございました。そういったことについて、今、大口委員おっしゃられるように、折に触れて防災マップを開く。浸水想定や土砂災害の想定区域を確認するだけでなく、この中にはいろいろ防災に関する情報についても盛り込みたいと考えておりますので、ちょくちょく開いていただくことについては、こちらから積極的に地元へ出向いて、啓発という形で行いたいと考えております。

以上です。

○委員（大口浩志君） はい。

○分科会委員長（佐藤 武君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） 地元へ出向いていただくというのは、すごくありがたいんですけど、もうそれはそれでやっていただければと思います。ですけど、皆様御存じのように、このコロ

ナで人に対面をするなど、町内の行事すら取りやめるところも多かった部分も鑑みて、兵庫県のある町の取組を御紹介できたらと思います。

そこもこういう防災マップを市民に配っておられます。これ550万円かかるようですが、それを何回も何回も繰り返し手に取っていただける仕掛けが、いい悪いは別にして、防災マップに通し番号を振る。防災の日に合わせてとか、春先であるとか、抽せんをして当たった人には何か景品のようなものが当たるということで取り組んでおられる町があるようです。

やり方がいい悪いは別にして、そうすればどれぐらいの人が割合的に見てくれたのかなあととか、1年に一遍でも手に取るような仕掛けづくりができるのかなあと、そのやり方を別に丸のみしろというようなことではないんですが、せっかく作ったものを、一番は命の安全を確保するためのものだと理解しますので、なるべく、仮に年に一遍ずつでも見れるような仕掛けづくりを、赤磐市独自のものも、今即答はなかなか無理でしょうけど、御検討をいただけたらと思います。

以上です。

○分科会委員長（佐藤 武君） 何かございますか。

岡本課長。

○くらし安全課長（岡本和典君） 御提案、大変ありがとうございます。参考にさせていただきます。例えばということで、今申し上げましたけれども、2年に1回、総合防災訓練というのを赤磐市で行っておりますので、今、大口委員がおっしゃられたような抽せんというのか、そういった形になるかどうかはちょっと分かりませんが、何かそういう場を利用しての啓発というようなことも、これから考えていきたいと思います。ぜひ、委員さんのほうからも、今のよう御提案をいただければ参考になりますので、積極的にそういったことについては取り入れていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○分科会委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

ほかにありますか。

松田委員。

○委員（松田 勲君） 説明資料10、11ページの中で、職員の人件費が、今回異動があったんですが、これに職員が79から84ってなってるんですけど、これ具体的にどういった目的で異動があったのか、ちょっと教えていただきたい。

○総務課長（花谷晋一君） 委員長。

○分科会委員長（佐藤 武君） 花谷課長。

○総務課長（花谷晋一君） その部分ですが、記憶にある限りでちょっとお話をさせていただくのですが、いきいき交流センターに職員を1名多く配置したり、あと総務課へ弁護士職員を年度途中の関係で1名増えたり、そういうものを足しまして5名の人間が増えているという状況です。給料を払った人間が異動してもその人数にカウントしますので、そういう格好で

5名増えております。

ちょっと分かりにくくて申し訳ないです。

○分科会委員長（佐藤 武君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） 要は、5人増えているんですけど、コロナの関係で増やしたのか、どういったことで増えたのか。増えた部署も含めて、ちょっと簡単に、ほかにも増減があるんですけど、ここがちょっと大きいなと思ったんで、ちょっと教えていただきたいんですけど。

○総務課長（花谷晋一君） はい。

○分科会委員長（佐藤 武君） 花谷課長。

○総務課長（花谷晋一君） すいません。御質問の件ですが、全体で申し上げますと、人事異動の関係で人数の増減につきましては、異動等で職員が増えたり減ったりする関係で、その科目からお支払いした人数が何人かということとさせていただきます。今御指摘の部分は額でいきますと総額96万5,000円ほどの増額でございますので、丸々5人増えたわけではございません。ちょっと説明資料が分かりにくいかもしれませんが、そこへ一旦でも所属しとった人間を1としてカウントしとるということでそういう、少し時間をいただきましたら、はっきりした数字を。

○市長（友實武則君） 委員長。

○分科会委員長（佐藤 武君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 総論的な説明をさせていただきます。

人件費の予算の組み方から説明させていただきます。前年度末の各部署の人件費を基に新年度の予算を当初予算として組み上げます。その後に人事異動等で各部署の人事配置がはっきりされます。人数等も部局間で人事異動で増えたり減ったり、そういう部局が発生します。市トータルでは職員数は減少傾向で、その結果トータルの人件費は減額となっているところでございますけども、先ほど御案内があったように、コロナの関係等とか、その部局間で凸凹が発生して、この総務部分でいえば今お示ししているように若干増えているというような現象が見えているということで、1つの部局を取り出すとこういうことになっています。全体でいうと、先ほど言ったような形が見えるようになってはいるんですけども、そういう集計が予算書の中では見えにくくなっているということでございます。よろしく申し上げます。

○分科会委員長（佐藤 武君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） 今、市長ので分かるんですけど、要は全体でいうと、この総務の資料によると3,633万5,000円、人件費が下がったとなって、それはもう全体ですよ。全体の人件費でそれだけ下がったということだと思うんですけど、そう理解すりゃいいんですか。

それで、さっき言った凸凹はあると思うんですけど、私が思ったのが5人も増えたということは、どっか強化されたんかなあと。総務の中でどっか人員配置するのに強化、それはコロナの関係なのか、その辺がちょっと分からないんで、教えていただきたいなと思ったんですけど

ど、それはないんですかね。ただ、凸凹の関係だけですか。どっかを強化したとか、どっかを増やしたとかというわけじゃないんですね。

○分科会委員長（佐藤 武君） 花谷課長。

○総務課長（花谷晋一君） 申し訳ございません。3名は思い出せるんですが、2名がちょっと思い出せなくて、1名は。

○市長（友實武則君） そういうことじゃのうて……。

○総務課長（花谷晋一君） 5名の内訳を言ようられるわけじゃないですか。

○市長（友實武則君） 職員数が増えとんなら、その増えとる分野はどこかとか、そういう意味じゃと思う。

○分科会委員長（佐藤 武君） ちょっと休憩しましょうかね。

今、松田委員は5人が増えた、その増加の理由を具体的にお尋ねになったんで、そこら辺ちょっと確認できればと思いますので、そうですね。

○委員（松田 勲君） どう強化したかなというの、具体的に。

○分科会委員長（佐藤 武君） 11時半まで休憩します。

午前11時20分 休憩

午前11時30分 再開

○分科会委員長（佐藤 武君） それでは、再開します。

答弁、お願いします。

○総務課長（花谷晋一君） 委員長。

○分科会委員長（佐藤 武君） 花谷課長。

○総務課長（花谷晋一君） 失礼しました。松田委員の御質問にお答えします。

総務費、総務管理費、一般管理費の人件費につきましては、総合政策部、総務部、財務部の予算が主でございます。その中でも弁護士の人件費が1名、あと防災機能とかの強化によりまして、安全課でありますとか、その他財務部のほうでも人が増えている部分がございますので、その積み上げで5名という数字が上がっております。よろしくをお願いします。

○分科会委員長（佐藤 武君） よろしいでしょうか。

○委員（松田 勲君） はい、いいです。

○分科会委員長（佐藤 武君） ほかに質疑がありますか。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○分科会委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 僕のほうがそぐわんかもしれませんが。今ちょっと振り返って昔からのことを考えてみたら、私が議員だった当時で、景気のいい時代ですからそういう考え方が当たり前になると思うんです。毎年の予算が前年度を下回らんような事業予算を組みたいというのが、当時の田舎の町長さんというのはそういう物の考え方ばっかしを日々しとられるという

のがもう、よく記憶にあるんです。今この12月の次の年度へ移る前の年度において事業予算の小さい予算が普通だったらちょこちょこ、できなかったことを年度内にやってあげにゃいけんというのが12月の予算に上がるというのが、私はあつてしかりという考え方を持っとなで、そういう事業予算が、ほかの委員会の予算書を見ても、総務を見ても、そういう部分がちょっと少ないような気がするんです。そういう部分においては、行政として一般市民の要望を聞いた中で、年度の仕上げや小さい仕事、事業をやってあげるといような表現悪いですけど、やるというのが行政じゃないかと思うんですが、そういう予算が上がってないということについて、市長はどう思われますか。

○分科会委員長（佐藤 武君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 過去のことをどうこう言うつもりはありません。今の赤磐市の予算運営、財政運営の基本を言いますと、基本的には財源が不足してます。そういったところから、当初予算ベースで言いますと前年度の予算を参考にしながら、この削れるところを削っていくというような方針を実行させていただいております。そういう中で、コロナの関係は別として一般の部分でいいますと、年度の途中で必要となるものについては柔軟に対応することを基本にはしておりますけども、その際にやはり市の一般財源、これを支出することを最小限にということを中心に、交付税措置される起債あるいは国庫補助金、交付金、こういったものを最大限活用して年度の途中で必要になる事業についても、そういった財源付きの事業を優先して市民の要望に応じていくということをさせていただいております。

したがって、逆に言いますと、財源つきでない事業というのは、どうしても一般財源を使っていくしかありませんので、一般財源を、今の赤磐市が約200億円の一般会計を持っておりますけども、その中の一般財源、純粋に税収等で賄うものといったら約50億円しかありません。その50億円を要るからといって使っていくと、もうこれあつという間になくなります。それを補うのは何かというと基金の取崩しです。一旦取り崩した基金は、もう戻ってきません。そういったことから持続可能な赤磐市の財政運営を見ながら、基金の取崩し額をなるべく少なくするという基本的な財政運営をさせていただいておりますので、かつてと今と運営方針が違つと言われれば、大きく違つたかもしれません。

以上です。

○分科会委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） もうその話は、市長が度々議会でお話しされとなでよく理解してます。それは理解しとなですが、本庁舎それから赤坂、吉井、熊山と離れた支所においては、区長さんがいろんな事業に対して支所へ相談をされるんですが、そのときの答弁がお金がないからできんという答弁がもう一番多いらしいんです。お金がないからできんというて、支所のほうはそういう話ばっかし重なっていくと、支所の辺りが暗く暗くなるんで、そういう答弁の仕方も、やっぱしもう少し幹部会で相談するなりして、お金がないからじゃなしに、今市長が言



われるように、ある程度の方向性が見えるような答弁をしてあげてほしいという考え方から今言よんで。別に、できんものは何ぼやってもできんです。できんのじゃけど、絶対できんという考え方じゃなしに、できるように努力してみましようというように伝わるぐらいの答弁をしてあげてくださるよう、各区長さん、かなり人数おられるんで、どこの区長さんもそういう暗い意識を持ちつつあるんで、そうじゃなしに、やっぱいろいろな予算対応して来年度とか再来年度とか、一、二年かかりますけどというような話ができるんじゃないかと、僕は思うんですけど。今の市長の考え方でいえば、それができる。だけど、もうお金がないからという切ったら、もう何にもないじゃ、話が先行き暗いんで、そういうことのやり方をもう少し、支所にも対応するように指導してもらいたいという考え方で。

○分科会委員長（佐藤 武君） 友實市長。

○市長（友實武則君） とてもいい御指摘いただきました。実は、職員に対しては市民の皆さんが町内会長や区長さん含めて、切実なる要望をされております。それをお金がないからということで断るのは、これはもう相手の目線に立っていない、役所都合で物を言っていると私は思ってます。そして、職員に対しては、お金がないからできないのではなくて、例えば公平性を見たらここではできても、こっちではできないというような話になってはいけません。ですので、市全体での公平性、優先性、そういったものを考えて、もう少し待ってくださいとか、例えばその管理者が赤磐市でない場合も結構多いです。そういったきちんとした説明をして納得してもらおうようにしなければ、お金がないと言って切って捨てたら、非常に理解を得られないということなので、そういう市民に対する説明はやめるべきという指示もさせていただいております。そうやって今委員のほうから、まだまだそういう断り方をしている職員がいるということなので、指導を徹底していきたいと思えます。ありがとうございます。

○分科会委員長（佐藤 武君） ほかにございますか。

○分科会副委員長（安藤利博君） はい。

○分科会委員長（佐藤 武君） 安藤委員。

○分科会副委員長（安藤利博君） ちょっと下山委員が言われたんで、ちょっとそれ以上にそぐわないかもしれないんですけど。新しい予算ということですけど、今回の予算には入らないんですけど、来年ぐらいでも入れていただければというのが、実は、町内会からの要望書、自治会連合会から上がっている中で、例の防災無線、これのやり取りがまるでかみ合っていないんです。あまりそぐわな過ぎましたね。分かりました。これまた次回に。

○分科会委員長（佐藤 武君） この範囲の中でお願いします。

○分科会副委員長（安藤利博君） はい、了解です。また、別の機会にお願いいたします。

○分科会委員長（佐藤 武君） 申し訳ないです。ありがとうございます。所管の予算ということで御理解いただけると思いますが、

ほかに質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会委員長（佐藤 武君） それでは、所管の予算部分の質疑がほかはないということで、質疑を終了したいと思います。

それでは、以上で当分科会の審査は全て終了しました。

なお、委員長報告については委員長に一任していただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会委員長（佐藤 武君） それでは、そのようにさせていただきます。

皆様方には、本日は長時間にわたり大変お疲れさまでした。

これで予算審査特別委員会総務分科会を閉会といたします。大変お疲れさまでございました。

午前11時42分 閉会